

令和7年度 北河内各市における在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況等

令和7年11月26日

各市	重点的な取組	令和7年度 課題・進捗状況	今後の事業展開
枚方市	キ 地域住民への普及啓発	<p>(現状及び課題) 認知症(新しい認知症観含む)・ACPの理解を深めてもらえるよう、引き続き市民への普及啓発が必要。併せて、保健・医療・介護・福祉等の関係機関が連携を図り、認知症・ACPに関する支援を提供できるよう協働で取り組みを進めていく必要がある。 (令和7年度における進捗状況) ①認知症普及啓発・認知症月間(世界アルツハイマーデー)に合わせ、市民向け映画上映会の開催(映画「オレンジランプ」)、市民・専門職向け認知症講座の開催。また、関係機関連絡会等の場において、市や医療機関で取り組んでいる認知症に関する取組みの情報共有を実施。 ②ACP普及啓発:終活・人生会議に係る冊子(枚方市版「終活まるわかりガイド」、枚方市版終活ノート「わたしの思い手帳」)の作成・配布、多職種連携研究会や市民向けにACPIに関する講座の実施・冊子の活用に関する説明、市役所・関係部署での展示コーナー設置、市内医療機関にACP啓発ポスターを掲示。市民向け講座において、枚方寝屋川消防組合より「人生の最終段階にあり心肺蘇生等を望まない心肺停止傷病者への救急隊の標準的活動ガイドライン」運用に関する進捗報告を行っていただいた。</p>	<p>・「認知症月間」や「人生会議の日」に合わせたイベントや掲示を行うことで、関心層にアプローチするだけでなく、医療機関や薬局の待合、商業施設などへの関連資材の設置等を検討し、無関心層へのアプローチを強化。 ・「人生の最終段階にあり心肺蘇生等を望まない心肺停止傷病者への救急隊の標準的活動ガイドライン」の運用に関して、高齢者に関わる施設関係者へ周知できるよう、講演会や資材の検討を行う。</p>
寝屋川市	ウ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	<p>①入退院連携シート及びACPの普及・啓発 各圏域のケアマネージャー交流会や病院の地域連携部会に参加し、それぞれの入退院連携シートの活用状況を確認。ACPIに関連する項目の追加の検討が必要である。 ②在宅医療と介護の連携に係る課題抽出・対応検討 在宅医療・介護の連携拠点とのミーティング会議に毎月参加、切れ目のない在宅医療・介護について課題抽出・対応策を検討している。 ③顔の見える連携づくりの構築 令和5年度より在宅医療・介護連携推進勉強会(寝屋川市Meetup!)を年2回開催している。今年度から身寄りのない高齢者をテーマに深掘りし、連携の課題や他職種の理解に取り組んでいる。</p>	<p>①入退院連携シートにACPの項目の追加やエンディングノートを活用し、患者・利用者の情報を在宅医療・介護に携わる多職種で共有できるよう支援していく。 退院前カンファレンスを実施し、在宅で不安なく生活ができるような連携体制の構築、また、在宅生活に不安を感じた場合は、サービス担当者会議が迅速に行え、支援できる体制づくりを進める。 ②在宅医療・介護連携推進協議会を実施し、抽出された課題や情報を庁内や在宅医療・介護に携わる関係団体で共有するとともに、ニーズが複雑化する高齢者に対応できるよう、体制づくりを進める。 ③在宅医療・介護連携推進勉強会(寝屋川市Meetup!)の開催を継続し、他職種への理解を深め、連携しやすい関係づくりの構築を引き続き支援する。</p>

令和7年度 北河内各市における在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況等

令和7年11月26日

各市	重点的な取組	令和7年度 課題・進捗状況	今後の事業展開
守口市	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	在宅医療推進会議では、課題となった意思表示に関する取扱いの啓発として医療・介護関係者の研修や地域住民への啓発など活動を開始している。 また、入退院時支援として市民の必要な情報を医療機関が把握できるための安心カード(携帯用)の取組みや検証の実施、在宅医療及び介護支援に関する改善策などについての意見交換や検討を続けている。	・切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進 ・地域住民への普及啓発 ・関係者と地域住民とが共通する認識のもと、滞りない在宅医療や介護連携を図る。
門真市	カ 医療・介護関係者の研修	11/29(土)の開催に向け、医療職(医師・MSW・訪問看護師)や、介護職(CM、包括職員、施設職員)などと会議を開催し、市域での課題や、今現場で対応に困っていることなどを出し合い、研修の議題に落とし込む作業を行っている。 効果的な研修を行うために、GWやオンライン集計を用いたアンケートなど、医療職・介護職で意見を出し合っている。 今後の課題としては、会場の関係で定員があることや、新規の出席者の開拓があがっている。	本市では事業の一部を門真市医師会に委託して行っており、この研修も委託している。 そのため、本事業の目標達成に向けて、門真市医師会と今後も連携を行い事業運営を行う。
大東市	キ 地域住民への普及啓発	大阪府在宅医療サービス基盤整備事業と連携し、口腔栄養嚥下についての研修会及び、訪問診療や看取りについての研修会を予定している。 また、ACPの普及啓発として、市民向け出前講座や広報誌への記事掲載を行う。さらに、ACPを行うきっかけのひとつとして「わたしの想いをつむぐノート」を作成しており、人生会議の重要性の周知に取り組んでいる。	在宅療養や看取りについての市民向け研修会や草の根活動を実施することにより、理解を深めるとともに、考えるきっかけづくりとする。 また、草の根活動を校区福祉委員の皆様など地域で活動されている方へ実施することで、その方々からまた地域住民の皆様へ広がっていくよう協力を得ながら啓発の輪を広げていく。そして、市民の意見や在宅看取りに関する事例をワーキンググループに参加する専門職間で情報共有し、課題について検討することで、より良い市民啓発活動につなげる。

令和7年度 北河内各市における在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況等

令和7年11月26日

各市	重点的な取組	令和7年度 課題・進捗状況	今後の事業展開
四條畷市	キ 地域住民への普及啓発	<p>市民が、望む形で最期を迎えるためには、意思表示ができる元気な時からどのような最期を迎えるかについて考える必要がある。ACP(人生会議)を行うきっかけのツールとして、「わたしの想いをつむぐノート」の作成および配布、広報誌やホームページにおいて啓発を行っている。また、草の根運動として地域包括支援センターが講座を実施している。その他、エンディングノートを市窓口、地域包括支援センター等で配布。</p> <p>どのような最期を迎えるかを市民自ら積極的に考えるためには、単発的な啓発では効果が薄く、啓発を継続して行うことが必要である。</p>	<p>広報誌やHPに掲示することでACPについて広く市民に周知を行うとともに、医療・介護連携ワーキングや地域包括支援センターにて市民向け講座を通じた啓発活動を継続していく。</p> <p>また、医療・介護連携ワーキングにおいてACPを普及するための課題を共有し、課題に応じ市民向け啓発研修会など検討していく。</p>
交野市	ウ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	<p>・多職種連携委員会では、より実践的な活動ができるよう、今回部会を設置。誰もが最期まで自分らしい暮らしを続けられる町「交野」をめざし、市民の理解を広げるチーム、自分たちが知識を高めるチーム、2つのチームを統括するチームの3つのチームがそれぞれの役割に沿って活動をする。</p> <p>・医療介護連携会では、昨年度に引き続き、エンディングノートを実際に使用してグループワークを実施。</p>	<p>・多職種連携委員会では、部会の活動を推進。まだまだ認知度が低いACPについて、自らも知識を高めながら、市民啓発に努める。</p>